

CMSを利用した野良猫MAP

a2200503 五十嵐 瞳

【背景】

現在、野良猫の問題は

- 発情期の鳴き声や夜間の喧嘩
- 雄猫のマーキングのスプレーによる臭い
- ゴミ捨て場や花壇を荒らされること
- 糞の不始末

などが主なものである。

その野良猫問題の対策の一つとして「地域猫活動」の例がある。地域猫とは「地域の住民により、適切な管理や飼育が行われている猫」のことであり、主な地域猫活動の内容は「猫への不妊・去勢手術や、餌やり、清掃など」である。このような活動を行うことで

- ゴミを漁らなくなる
- 発情期特有の大きな声なくなる
- オス猫のスプレーの臭いが減少する

などの効果が得られる。しかし「地域猫活動」を行っている人と、「地域猫活動」を受け入れない猫嫌いの人との間で、トラブルが発生する事もある。

【目的】

この制作で、猫に関する情報を知ってもらう事で猫嫌いの人の嫌悪感を少しでも緩和したり、生息状況を地域の中で共有したりすることによって、野良猫問題解決の第一歩を踏み出すこと。

※地域で情報を共有する事により、地域猫活動を更に活性化させる事を目指しているサイトには以下のものがある。

参照：<http://nekodasuke.main.jp/>(東京、主に新宿区)
<http://www.snwgrp.net/>(仙台市)

※大阪市都島区では、政府とボランティア団体が住民に「地域猫活動」について理解してもらうために協力して活動している。

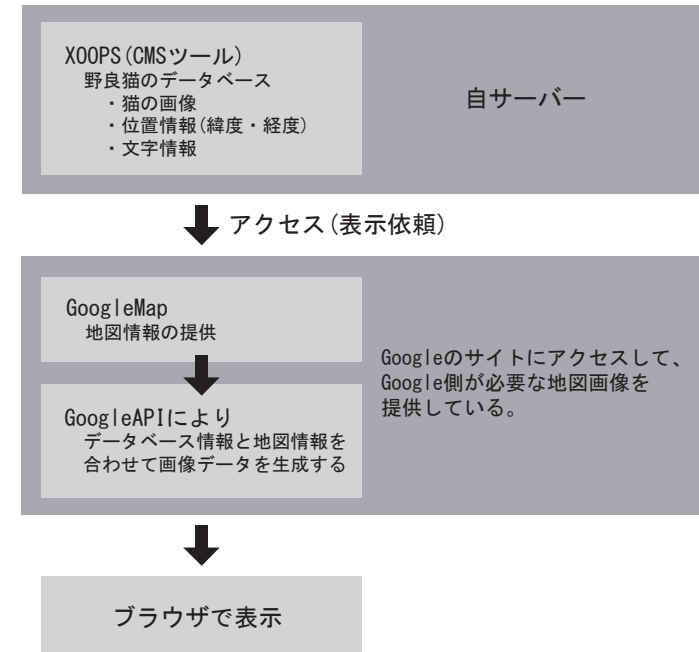
参照：<http://weekly-onn.jugem.jp/?eid=221>

【制作課程】

- (1) 計画
- (2) 調査
 - ・野良猫による被害内容や、地域猫活動の現状の調査。
 - ・野良猫の住む場所や性別・特徴の他に、ゴミ捨て場や空き地・花壇などの野良猫による被害がありそうな場所の調査（会津若松市大塚一丁目を調査範囲とした）
 - ・web上に試作品を載せ、意見調査。
- (3) 制作
- (4) 考察

【制作方法】

GoogleMapと、XOOPSというCMS(コンテンツ・マネジメント・システム)のGmapモジュールを利用。CMSとは、Webコンテンツを構成するテキストや画像、レイアウト情報などを一元的に保存・管理し、サイトを構築したり編集したりするソフトウェアのこと。CMSを導入した場合、技術的な知識がなくても、テキストや画像等の「コンテンツ」を用意できれば、ウェブによる情報発信を行う事ができる。



【考察】

野良猫MAPをもし実際にweb上に掲載した場合、最近よくある虐待・虐殺などの悪質な事件が起こる可能性があると考えていた。しかし「実際そのような事件はMAPの有無とは関係なく起こる」との指摘の声があった。また「新しくその地域に住もうという人にあらかじめ情報を提示することで、無用のトラブルを避けることができるかもしれない」という意見もあった。このように、私が周りの意見を聞いて気付いた事は多く、また周りの方々も私の考えや意見を知る事で何かしら得るものがあると思う。地域の中で更にうまく広がれば、web上だと他の人による猫の情報をいつだって見る事が可能な上、今回のように文字だけでなく、写真やGoogleMapなどを利用する事で、情報が格段に見やすくなると思う。